

事業所における自己評価総括表 (児童発達支援)

公表

○事業所名	こども発達支援 C o - C o デラス+			
○保護者評価実施期間	令和7年12月25日		～	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日		～	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月19日			

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	HUGシステムを活用し、写真付きで活動の様子を保護者へ配信。文章だけでは伝わりにくい子どもたちの表情や取り組みの様子を、写真とともに具体的にのお伝えすることで、事業所での過ごし方や成長の過程を共有、保護者の安心感に繋がるという効果があると考えております。	当日の様子をできるだけタイムリーに発信することで、保護者との共有を密にし、家庭と連携した支援に繋がっています。	- 写真と合わせて「支援のねらい」も簡潔に明示する。 - 保護者からの返信や質問、相談に丁寧に対応し、双方向のやりとりを強化していく。 - 今後もICTを活用しながら、見える支援・伝わる支援を意識して取り組んでまいります。
2	運動、学習、感覚統合をバランスよく組み合わせた支援を提供しています。 ・発達段階に応じた多様な教材の提供。 ・スープリュームビジョン、コグニショントレーニング ・ICT教材を使った個々のベースに合わせた「学習の土台」を整える支援の提供。	単なる課題提供だけではなく、日々の活動の様子を支援者間で振り返り、支援効果の検証と見直しを行っています。その中で「なぜこの活動を行うのか」という支援意図を明確にしていることを意識しています。 ・楽しみながら行動の定着や自己コントロールの向上を目的とし、トークンを活用しています。	子どもたちの発達段階に応じて、成功体験を積み重ねられる難易度調整をしながら、活動への意欲向上に繋げられるよう取り組んでまいります。
3	教員免許保持者、保育士、PT、OTなど専門的支援体制のもと、それぞれの専門性を活かし、多角的な視点から支援を行っています。	多職種でのケース共有や、発達段階を踏まえた支援内容の構成で、「やらせる支援」ではなく「できる環境作り」を重視しています。 専門職間のケース共有の強化、専門職研修の定期的な実施、また専門職によるアセスメントと助言、個別性を重視したプログラム、成功体験を積み重ねる支援設計に取り組んでまいります。	

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「父母の会の活動の支援や、保護者会、また、きょうだいの向けのイベントの開催等によりきょうだいの支援がされていますが」について、半数以上の保護者の方が「わからない」という回答があり、家族支援の取り組みが十分認識されていない現状が明らかになりました。	実施頻度が少ない、または定期開催ではないこと、開催しても周知が十分ではない、参加したくてもできない(例：送迎ができない)といった要因が考えられます。特に「分からない」という回答が多いことから、実施の有無以前に情報発信、周知方法にも課題があったと分析しています。	本年度は、サッカー教室による交流の機会を設けました。より参加しやすい開催に向けて改善してまいります。
2	家族が参加できる研修会や情報提供が行われているかについて、「わからない」「どちらともいえない」という回答がありました。	家族参加の研修会などは、日程が参加しづらいため、不定期であることや、研修会という形式で実施していないため、療育の参観、個別相談や面談も家族支援、情報提供の一環であることも認識されにくいといった要因が考えられます。	療育の参観を定期的に実施していることを、保護者へ案内の発信を強化し、参加しやすい、わかりやすい情報提供体制の構築を目指してまいります。
3	非常災害に備えた必要な訓練が行われているかについて「わからない」「どちらともいえない」という回答がありました。	事業所では、火災、地震、不審者対応等を想定した避難訓練を年間計画に基づき実施しておりますが、実施曜日を特定していないため、利用日に重ならない子どもがいるため、情報発信と共有方法に課題があったと分析しております。	契約時、年度初めの説明の再確認で、保護者への説明機会を充実してまいります。これまで通り、実施の取り組みについては、日々の提供記録による発信で情報共有を図り、保護者の皆様が安心してできる体制作りに努めてまいります。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果

公表

事業所名 こども発達支援 Co-Coテラス+

公表日 令和 8 年 2 月 20 日

利用児童数 9人 (家庭)

回収数 8家庭

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7			1		さらに良い環境が整えられるよう取り組んでいます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	5			3		継続して適切な人員配置ができるよう進めています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6			2		今後も、事業内の構造化に留意し、切な療育環境が整えられるよう進めてまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8					引き続き、清潔で心地よく過ごせる空間・環境を目指します。
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8					社内研修の充実を図り、支援の質の向上により図られるよう進めてまいります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8					お子様一人ひとりに合わせた支援ができるよう引き続き取り組んでまいります。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7			1		引き続き、保護者様・お子様のニーズを丁寧に聞き取り、必要な支援経路の確立に努めてまいります。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8					引き続き、よりよい支援ができるよう丁寧な聞き取りと必要な支援計画の立案に取り組んでまいります。
保護者への説明等	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8					日々の振り返りの中で、支援計画の妥当性や必要性を確認しながら、よりよい支援が提供できるよう進めてまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8					引き続き、お子様の状態に寄り添いながら多彩なプログラム展開で楽しみながら取り組めるよう進めてまいります。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域でのこどもの活動する機会がありますか。	5	1		2		ニーズが少ないため交流の機会はありませんが、今後、必要に応じて対応してまいります。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8					引き続き、丁寧でわかりやすい説明に努めてまいります。
保護者への説明等	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8					引き続き、発達の状態を共有しながら丁寧な説明に心がけてまいります。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4			4		プログラムとしてのペアレント・トレーニングは行っておりませんが、ご相談がある場合には個別に対応してまいります。お気軽にご相談下さい。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	8					療育の献子をできるだけわかりやすくお伝えし、成長も課題も保護者様と共有していきたくと考えております。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7		1			支援計画の進捗に合わせての面談だけでなく、日々、迅速にご相談に応じることが出来るように留意しております。お気軽のお声掛けください。
保護者への説明等	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8					引き続き、ご家族やお子様の状況に寄り添った支援ができるよう努めてまいります。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだいの向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2		1	5		本年度は、サッカー教室による交流の機会を設けました。より参加しやすい開催に向けて改善してまいります。

19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7			1	ご契約の時にもお知らせしながら、いつでもご相談いただき、しっかり寄り添った面談ができるように留意しております。お気軽にお声掛けください。
20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8				HUGシステムの導入で、迅速に活動内容をお知らせできるように配慮し、Co-Coテラスlineでの連絡と合わせて、迅速な情報伝達を行っています。
21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8				HPやインスタグラムにより情報発信を行っています。今後もより迅速にわかりやすい情報発信に努めてまいります。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8				引き続き、個人情報の取扱いについて、十分に留意してまいります。
23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4			4	必要な訓練を年間計画に基づき実施しております。引き続き、安全管理体制の強化と保護者の皆様への丁寧な説明に努めてまいります。
24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3			5	事業所では、火災、地震、不審者対応等を想定した避難訓練を年間計画に基づき実施しております。特定曜日で実施しているため、契約時、年度初めの説明の再確認で、保護者への説明機会を充実してまいります。
25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7			1	わからないとの評価があるので、更に丁寧に周知を図ってまいります。
26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7			1	わからないとの評価があるので、更に丁寧に周知を図ってまいります。
27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8				今後も、子どもたちが安心して過ごせる環境作りを目指してまいります。
28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8				今後も、一人ひとりの特性や思いに寄り添った支援を継続してまいります。
29	事業所の支援に満足していますか。	8				今後も現状に満足することなく、子どもたちが「また来たい」「楽しい」と感じられる居場所であり続けられるよう、保護者の皆様、関係機関との連携を大切にしながらより質の高い支援の提供を目指してまいります。

非常時等の対応

満足度

事業所における自己評価結果

公表

事業所名	こども発達支援 Co-Coテラス+	公表日	令和8年 2月 20日			
	チェック項目	はい	どちらでもない えはい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	3		活動部屋は3つの部屋で区切られているため、状況に応じて運用しています。	今後もスペースの有効活用とニーズに合った運用ができるよう心掛けてまいります。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	4		出来る限り、利用児1人に対して1人のスタッフが対応できるような職員配置をしています。	法令上の基準は満たしており、今後も職員の資質向上と適切な職員配置に努めてまいります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1		各部屋への移動が階段があるスペースと繋がっているため、ガードをつけるなど環境整備に努めています。	引き続き、利用時の特性に合った環境づくりと適切な配慮を行ってまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			毎日の清掃、玩具教材の衛生管理、視覚的に落ち着ける空間作りに努めています。	引き続き環境整備に努めてまいります。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5			お子様の状況に応じて、活動部屋が分かれているため、対応しやすい環境になっています。	引き続き環境整備に努めてまいります。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	1	4		午前中に前日の振り返りの時間を設け、出勤職員全員で目標達成と課題の確認ができるようにしています。	今日の振り返りのほかに、2〜3ヶ月程度のスパンで行っている振り返りを、必要であれば目標修正ができるようにしていきます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		1	保護者評価を実施しています。頂いた評価やご意見をもとに職員間で共有し改善につなげています。	職員全体で保護者のニーズを共有し、引き続き改善に努めていきます。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2		毎日の朝礼や会議で、気が付いたことを職員間で共有し、話し合いで改善につなげています。	引き続き、よりよい支援ができるよう改善に努めます。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2		第三者評価は行っておりませんが、事業所の見学や参観はいつでもできる状況で、開かれた事業所運営を行っています。	必要に応じて実施を検討します。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			月1回、職員の資質向上のための事業所内研修会を開催しています。外部研修は、希望により受講できるよう運営しています。	引き続き、内部研修や外部研修に積極的に参加し、資質向上により高度な療育の推進に努めてまいります。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	2		ガイドラインに基づき支援プログラムを作成し、公表しています。	引き続きよりよい支援が行えるよう努めてまいります。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4	1		丁寧なアセスメントと、複数職員による課題分析により支援計画を作成しています。	引き続きよりよい支援が行えるよう改善に努めてまいります。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	1		複数の職員によるケース会議やAIによる課題分析も取り入れながら作成しています。	引き続き、確かな課題把握と目標設定ができるよう努めてまいります。
	14 児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	2		アセスメントツールの見直しや活用、日々の行動観察や保護者からの聞き取り・連絡内容などを定期的に確認できるようにしています。	引き続き、よりよい支援ができるよう努めてまいります。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			ガイドラインに沿って、必要な支援項目の設定や目標設定を行っています。本人支援だけでなく、保護者や園・学校等に関しても必要に応じて対応できるよう支援計画を作成しています。	引き続き、よりよい支援ができるよう努めてまいります。
適切な支援の提供	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			日々の記録をチームで共有し、活動プログラムの立案だけでなく、小さな変化も見逃さずよりよいプログラムの実践に生かせるようにしています。	引き続き、課題の達成状況や確かな現状分析ができるよう努めてまいります。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			日々の振り返りと支援会議により、療育グッズの検討や療育環境の見直しを行い、個々に適した活動プログラムの実践を行っています。	引き続き、適切な活動プログラムの実践が行えるよう、確かな観察と分析によるプログラム構成ができるよう取り組んでまいります。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1		日々の振り返りと支援会議により、療育グッズの検討や療育環境の見直しを行い、個々に適した活動プログラムの実践を行っています。	引き続き、適切な活動プログラムの実践が行えるよう、確かな観察と分析によるプログラム構成ができるよう取り組んでまいります。

19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			療育時間の中に個別活動時間と集団活動時間を設けています。個別活動時間は状況に応じて2人での活動を設定することもあります。	今後必要に応じて、個別・2人組・小集団を組み合わせながら支援計画に沿った支援を進めてまいります。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			前日のスケジュール確認と、朝の打ち合わせによる情報の共有と分担の確認を行っています。	今後も確実に打ち合わせを行い、よりよい支援へとつなげてまいります。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1		支援終了後には、実施してプログラムの内容と実施結果を記録し、振り返り会議の中で共有すると共に次の回の療育に生かしています。	今後も充実した振り返りを行い、支援に活かしてまいります。
22	日々の支援に関し記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			日々の支援記録を共通のフォルムに記録し、職員間で共有しています。記録には、次回に取り組むプログラムを記録し継続した支援ができるようにしています。	年度ごとに記録フォーマームの見直しを行い、確かな支援記録の作成に努めてまいります。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			2～3ヶ月毎にケース会議を行い、支援計画の達成状況を確認しています。日々の記録をAI分析するなどし適切な見直しにつなげています。	今後も、実施に即したモニタリングができるよう工夫してまいります。
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	2		児童発達支援管理責任者を中心に参画しています。必要に応じて、関係職員が参画できるように調整しています。	今後も、会議が有意義にすすむよう参加者の調整を図ってまいります。
25	地域の保健、医療（生治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		必要に応じて、相談支援事業所や医療機関等と連携して支援の充実と推進を図る体制を整えています。	今後も、保護者の要望や関係機関の要望に応えられるよう柔軟に対応してまいります。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	3		保護者の要望に応じて、会議への出席や資料の作成、参観の提供など柔軟に対応し、進捗の共通理解と情報共有に努めています。	今後も、積極的に情報提供に努め、よりよい支援につながるよう取り組んでまいります。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1		保護者の要望に応じて、就学先との会議を持ち、支援内容の情報提供を行うことで、支援の継続と理解の深まりにつなげています。	今後も、保護者の要望に応じたり、よりよい支援の継続につながるよう努めてまいります。
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					今後、必要に応じて積極的に進めてまいります。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。					今後、必要に応じて実施を検討してまいります。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	1	4		利用時の活動内容や課題の取り組み内容を、文章と写真で伝え、保護者からは、感想や課題での様子を知らせて頂くことや送迎時などに共通理解の機会を多くとるよう努めています。	引き続き、コミュニケーションの機会を取り、共通理解が深まるように進めてまいります。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5				プログラムとしてのペアレントトレーニングは行ってないため、今後、必要に応じて開催できるよう取り組んでまいります。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	1	4			今後とも、丁寧な説明に努めます。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2	3			今後、定期的なモニタリングにて聞き取りを行い、要望や意向の確認をしながら進めてまいります。
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5				今後丁寧な説明に努めてまいります。
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に対応し、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	1			引き続き、保護者との信頼関係の構築に努め、適切な助言や支援が行えるよう努めてまいります。

保護者の説明等

39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4		保護者のニーズもあり、実施に向けて計画を進めているところです。	今後必要に応じて応じて実施できるよう進めてまいります。
40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	1		契約時に説明し、相談の申し入れがあったときは、保護者のスケジュールに合わせ日程を調整するようにしています。	今後も、保護者に寄り添い適切な相談対応ができるように、適切に進めて参ります。
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	1		HPやSNSを適宜更新し、情報提供に努めています。システムや事業所のlineの利用で、保護者様と迅速に連絡が取れるようにしています。	今後も情報発信の充実と周知に努めてまいります。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			個人情報書類、書類に一括管理し、配する写真には、他児の情報が移りこまないよう配慮しています。	今後も、個人情報記載された書類の取り扱いや、日々の活動内での個人情報の管理に留意してまいります。
43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			絵カードや写真、文字の視覚支援、身体表現や手話など理解度や発達段階に応じた提示の仕方を工夫しています。保護者とは地域からコミュニケーションを図るよう心がけています。	今後もよりよい支援ができるよう、工夫や配慮に心がけてまいります。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関われた事業運営を図っているか。				事業所の行事の機会はありませんが、地域交流を行うなど、地域の方と出会う機会を持っています。	今後も、地域に関われた事業所運営ができるよう努めてまいります。
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		4	1	各種マニュアルを整備し、必要な研修を計画に添って行っています。	引き続き、避難訓練や対策の周知を図ってまいります。
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			定期的に避難訓練や研修を行い、マニュアルの読み合わせを行っています。	引き続き訓練の実施と内容の周知に取り組んでまいります。
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	2		契約時のフェイスシートやアセスメントシートを提出いただき、その後の計画変更新時に確認しています。	体調留意の必要な児童に対しては、職員への周知を漏らす、対応を確認してまいります。
48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2		食事の提供は行っておりませんが、おやつについては、アレルギーの把握・内容についてフェイスシートに記入し提出いただいています。	飲食を伴うイベント開催の際には、改めてアレルギーの有無を確認してまいります。
49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。				安全計画を策定し、計画に添って事業所内で取り組みを進めています。	引き続き、安全に留意し支援を行ってまいります。
50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づき取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			必要に応じて、指示物やライン連絡などで周知しております。	引き続き、内容の周知を図っていきます。
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1		日々の療育の中で気が付いたことを共有はもちろんのこと、ヒヤリ・ハット報告書を作成し改善に努めています。	引き続き、安全な施設運営に向けて取り組んでまいります。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			委員会の定期開催と虐待防止研修を実施しています。必要に応じて、児童相談所等、関係機関との連携を図っています。	引き続き、関係機関との連携を図っていき、定期的に研修を進めてまいります。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	1		委員会を定期的に開催し、虐待防止マニュアルの作成と、職員への内容周知のための研修を実施しています。今年度、対象児童はありません。	今後、必要な場合にはマニュアルに沿って十分に検討し丁寧な説明を行うと共に身体拘束の適正化に努めます。

非常時の対応